令和８(2026)年度県立高等学校入学者選抜の結果について

令和８（2026）年度県立高等学校入学者選抜は，全日制課程の特色選抜が２月５日（木）及び同月６日（金），一般選抜が３月５日（木），また，定時制課程のフレックス特別選抜が３月５日（木），一般選抜が３月 17 日（火）に実施された。これらの受検・合格状況は下の表に示したとおりである。

１　生徒募集定員の総枠について

令和８(2026)年３月の県内中学校卒業見込者数 16,458 人（前年比 367 人減）を考慮し，全日制課程の定員 を 10,405 人（前年比 390 人減）とした。

２　令和８(2026)年度入学者選抜について

(1) 特色選抜

特色選抜については，全ての全日制課程高校 58 校 108 系・科で実施された。選抜の方法として，全ての高校で面接を実施し，40 校 82 系・科では作文を，16 校 24 科では小論文を実施した。また，２校２科で学校作成問題による学校独自検査を実施した。

(2) 傾斜配点，面接等

昭和 61 年度から一般選抜（学力検査）の評価方法の弾力化を図り，教科内傾斜配点を実施している。実施については，各学校・学科の特色及び入学後の生徒の進路等を配慮して決めるものであり，今年度は３校３科で国数英の３教科により実施した。また，小山高校の数理科学科については，昨年度と同様に，数学の得点を 1.5 倍にする教科間の傾斜配点を実施した。

一般選抜（学力検査）受検者に対する面接は平成元年度から導入しており，今年度は 22 校 63 科で実施した。

海外帰国者・外国人等の受検に関する特別の措置については，特色選抜と同時に行うＡ海外特別選抜で 25 名が合格した。

定時制課程においては，満 20 歳以上の志願者は，学力検査を行わず，作文をもってこれに代えることができる。この制度では，４名が合格した。

以下，各教科の学力検査問題（全日制）について，出題の方針及び結果の概要について述べる。なお，各問の正答率は全日制課程入学者選抜における全受検者の結果を集計したものであり，完全正答者についての割合である。

＜表＞　受検・合格状況の推移

	令和８(2026)年度				令和７(2025)年度				令和６(2024)年度			
	全日制		定時制		全日制		定時制		全日制		定時制	
	特色選抜	一般選抜	ﾌﾚｯｸｽ特別	一般選抜	特色選抜	一般選抜	ﾌﾚｯｸｽ特別	一般選抜	特色選抜	一般選抜	ﾌﾚｯｸｽ特別	一般選抜
募集定員	10,405		560		11,075		560		10,795		560	
受検人員	4,244	7,566	177	185	4,501	8,287	176	227	4,828	8,657	173	226
受検倍率	1.64	1.04	1.77	0.41	1.68	1.11	1.76	0.50	1.74	1.08	1.73	0.50
合格人員	2,853	6,586	108	180	3,040	7,025	107	216	3,162	7,481	108	217
合格倍率	1.49	1.15	1.64	1.03	1.48	1.18	1.64	1.05	1.53	1.16	1.60	1.04

※　受検倍率＝受検人員÷定員，　合格倍率＝受検人員÷合格人員

国　語

出題の方針

1　中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ，中学校国語科の指導内容に即し，国語で正確に理解し，適切に表現する言語能力を総合的に評価できるようにした。

2　生徒の学力の実態に応じ，言語についての知識とその理解の程度を評価できるようにした。

3　生徒の学習や社会生活に関連があり，内容に偏りのない平易な文章を読んで，表現者の考え方を捉え，あるいは作品の描写や登場人物の心情を読み取るなどして，その内容をまとめて表現する力を評価できるようにした。

4　古典については，親しみやすい内容の作品を素材にして，我が国の言語文化に関する知識や作品の世界を広く理解する力を評価できるようにした。

5　作文は，自分の考えを条件に従って適切に書く力を評価できるようにした。

結果の概要

1 は，漢字の読み，書きに関する問題である。設問1の読みの問題は平均正答率が79.3%，設問2の書きの問題は平均正答率が70.2%であった。漢字の読みは，(2)「朗らか」，(5)「鋭敏」の正答率がそれぞれ64.8%，53.5%とやや低かったが，あとは９割を超える正答率であった。漢字の書きは(1)「導く」が 86.4%で最も正答率が高く，(4)「郵便」が59.4%と最も低い正答率であった。日常生活で使用する語彙の定着を今後も期待したい。

2 は，今村信隆「『お静かに！』の文化史―ミュージアムの声と沈黙をめぐって」を素材として出題した。美術鑑賞のあり方の変遷について論理的に述べた文章である。設問3および4の部分正答を含めた正答率は，それぞれ57.2%，32.7%であった。記述問題においては，本文中の語句を適切に用いて，必要に応じて自分の言葉で補いながらまとめる力が必要となる。

論理的な文章を読解する上では，筆者が本文全体を通して伝えようとしている主張を把握した上で，細部を正確に読み取る力を養っていくことが大切である。

3 は，髙田充「今日も私は，ひとつの菓子を」を素材として出題した。有名和菓子店の後継者となった語り手が和菓子品評会への出場を決意するにいたるまでの心情の揺れ動きを描いた場面を取り上げた。語り手の心情を読み取って記述する設問2および4の部分正答を含めた正答率は，それぞれ75.0%，74.3%であった。多くの受検生が積極的に記述問題に取り組んだことが伺える。

文学的な文章では，文章を読んで考えたことを伝え合うことに加えて，根拠となる部分を挙げて客観的に説明するなど，解釈について確認することが重要である。判断の根拠を探して話し合ったり，表現や描写に注意して登場人物の言動の意味を考えさせたりする学習活動を通して，文章を的確に理解し，自分の考えの育成に生かせるようにしたい。

4 は，「平家物語」を素材として出題した。暴風によって落ちた紅葉を焼いた役人の行為を，天皇が漢文の教養を踏まえた風雅な行為として肯定的にとらえる場面を取り上げた。設問1の歴史的仮名遣いは，正答率が85.8%と高い正答率であった。設問3の「跡形なし」を具体的に述べる問題は，部分正答を含めた正答率が35.5%と低かった。設問4の漢文の返り点に関する問題は正答率 80.8%であった。また，設問5および6の本文の内容理解を問う問題は，正答率がそれぞれ52.4%，51.0%とやや低かった。

古文の読解では，行為や動作の主体をおさえつつ話の流れを概括し，登場人物の言動の内容や意味を捉える学習が大切である。また，言語文化を継承するという観点からも，古文特有の言葉に注目したり，話の面白さを味わったりしながら，古典作品に多く親しむ機会をもち，現代に息づく古典の価値を理解することが大切である。

5 は，言葉の特徴や使い方など言語運用能力をみる問題と，作文である。設問1では，言語事項についての知識の確認にとどまらず，会話文の流れを踏まえて言葉を適切に用いる力を問うことを意図して出題した。

また，設問2の作文は，読書に関する日常的な設定を想定し，自らの考えを根拠とともにまとまりのある文章として表現する力を問うものである。普段の生活の中で，身の回りの出来事に対する意識を高め，考える習慣を身に付けるとともに，読み手の立場に立って自分の意見を表現する力を身に付けておきたい。

＜令８(2026)＞　　国　語　学　力　検　査　結　果　集　計　表

問題			正答率
1	1	(1)	91.7%
		(2)	64.8%
		(3)	95.2%
		(4)	91.3%
		(5)	53.5%
	2	(1)	86.4%
		(2)	71.3%
		(3)	59.7%
		(4)	59.4%
		(5)	74.0%
2	1		96.2%
	2		54.9%
	3		7.9% (57.2%)
	4		1.9% (32.7%)

問題		正答率
2	5	80.2%
	6	33.6%
3	1	64.5%
	2	4.7% (75.0%)
	3	77.4%
	4	12.5% (74.3%)
	5	78.8%
4	1	85.8%
	2	61.9%
	3	10.3% (35.5%)
	4	80.8%
	5	52.4%
	6	51.0%

問題			正答率
5	1	(1)	79.8%
		(2)	90.8%
		(3)	57.8%
		(4)	56.7%
		(5)	74.3%
	2		2.8% (93.0%)

※　（　）内は部分正答も含めた割合

社　会

出題の方針

1　中学校学習指導要領の趣旨を踏まえて，地理・歴史・公民の各分野から相互の関連にも留意して出題した。

2　各分野において基礎的・基本的内容を出題し，社会的事象に関する基礎的知識についての理解の程度をみようとした。

3　地図，図版，統計等から必要な情報を読み取り，適切に表現する力をみようとした。

4　各分野において論述問題を出題し，社会的事象等を多面的・多角的に考察し，適切に表現する力をみようとした。

出題分野・解答形式別の問題数・配点の内訳

	地理的分野	歴史的分野	公民的分野	合計
選択	10(20)	9(18)	8(16)	27(54)
記述	3(6)	4(8)	4(8)	11(22)
論述	2(8)	3(8)	4(8)	9(24)
合計	15(34)	16(34)	16(32)	47(100)

（　）内の数字は配点

結果の概要

1 は，地理的分野において，日本の諸地域を素材として，地形図の読み取り，自然環境や産業と人々の生活の関わりや，地域の特色など地理的分野についての理解の程度をみる問題である。

5は，石油化学コンビナートの分布について，習得した知識や複数の資料から読み取ったことを基に考察し，適切に表現する力をみるもので，正答率は36.7%であった。

2 は，地理的分野において，日本と世界各国とのつながり，世界地図を素材として，自然環境や産業と人々の生活の関わりや，地域の特色や地域間の結びつきなど地理的分野についての理解の程度をみる問題である。

5(3)は，チリ産ぶどうの日本への輸出の時期の特徴について，習得した知識や複数の資料から読み取ったことを基に考察し，適切に表現する力をみるもので，正答率は9.2%であった。

地理的分野の学習において，位置や分布，人間と自然環境との相互依存関係などに着目し，資料を活用して事象を説明したり，自分の解釈を加えて論述したり，意見交換したりするなどの学習活動を充実させていくことが必要である。

3 は，歴史的分野において，日本と大陸との関わりなどを素材として，各時代の特色や政治の変遷など歴史的分野についての理解の程度をみる問題である。

7は，日本と中国をつなぐ貿易の変化について，習得した知識や複数の資料から読み取ったことを基に考察し，適切に表現する力をみるもので，正答率は8.5%であった。

4 は，歴史的分野において，近代以降の日本と世界のつながりを素材として，各時代の特色や政治の変遷など歴史的分野についての理解の程度をみる問題である。

2(2) Ⅰ，Ⅱは，明治維新と人々への影響について，習得した知識や複数の資料から読み取ったことを基に考察し，適切に表現する力をみるもので，正答率はⅠが57.7%，Ⅱが35.0%であった。

歴史的分野では，各時代を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現する学習が重視されている。単元の最後に時代の特色を捉える学習活動の充実をお願いしたい。

5 は，公民的分野において，日本国憲法，国会や裁判所，直接請求権，公開市場操作などを素材として，法，政治，経済に関する制度や概念など公民的分野についての理解の程度をみる問題である。

8(1)，(2)は，需要と供給，公共料金について，習得した知識や資料から読み取ったことを基に考察し，適切に表現する力をみるもので，正答率は(1)が35.5%，(2)が58.3%であった。

6 は，公民的分野において，国際社会の協調に向けての取り組みなどを素材として，法，政治，経済に関する国際的な取り決めや概念など公民的分野についての理解の程度をみる問題である。

5(2)，(3)は，国連総会の議決や多数決の原理について，習得した知識や資料から読み取ったことを基に考察し，適切に表現する力をみるもので，正答率は(2)が41.7%，(3)が82.1%であった。

公民的分野では，法，政治，経済について，対立と合意，効率と公正などに着目し，社会的事象等について考えたことを説明したり，現代社会の諸課題の解決に向けて自分の考えをまとめて論述したり，議論などをとおして考えを深めたりするなどの学習活動を充実させ，思考力等の育成を図ることが求められる。

今後も社会科の授業では，課題を追究する活動を充実させ，学んだ知識・技能を活用したり，社会的事象について多面的・多角的に考察したり，構想したりする力を育成することが求められる。

＜令８(2026)＞　　社　会　学　力　検　査　結　果　集　計　表

問題			正答率
1	1	(1)	87.0%
		(2)	87.4%
		(3)	20.4%
		(4)	58.7%
	2		40.8%
	3		39.2%
	4		44.6%
	5		36.7% (83.5%)
2	1		78.1%
	2		63.4%
	3		40.2%
	4		50.5%
	5	(1)	41.0%
		(2)	49.4%
		(3)	9.2% (69.0%)

問題			正答率
3	1		72.5%
	2		82.4%
	3		41.7%
	4		67.4%
	5		71.9%
	6		37.3%
	7		8.5% (49.7%)
	8		53.7%
4	1		19.8%
	2	(1)	40.5%
		(2) Ⅰ	57.7% (65.2%)
		(2) Ⅱ	35.0% (41.3%)
		(3)	62.7%
	3		64.3%
	4		82.7%
	5		61.6%

問題			正答率
5	1		81.0%
	2		54.0%
	3		56.5%
	4		41.5%
	5		22.4%
	6		52.5%
	7		56.8%
	8	(1)	35.5% (62.4%)
		(2)	58.3% (67.7%)
6	1		59.3%
	2		32.1%
	3		69.6%
	4		40.7%
	5	(1)	60.4%
		(2)	41.7% (47.4%)
		(3)	82.1% (85.1%)

※　（　）内は部分正答も含めた割合

数　学

出題の方針

1　中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ，中学校数学科の指導内容に即して，数学の基礎的・基本的な知識及び技能，数学的な思考力，判断力，表現力等を総合的に評価できるよう，数と式，図形，関数，データの活用の４領域から出題した。

2　数と式の領域では，数の四則計算や文字式，方程式の問題を通して，数学全般に関わる基礎的な技能の習得状況を評価し，また，問題解決のための立式，計算及び説明を記述させることにより，基礎的・基本的な知識及び技能，数学的な思考力，判断力，表現力等を評価できるようにした。

3　図形の領域では，図形の計量問題や基本的性質に関する問題及び証明問題を通して，基礎的な概念や性質に気づき，筋道を立てて説明し表現する能力を評価できるようにした。

4　関数の領域では，関数の基礎的・基本的な問題や発展的な問題を通して，知識及び技能，数学的な思考力，判断力，表現力等を評価できるようにした。

5　データの活用の領域では，データの分布や確率に関する基礎的・基本的な問題を通して，知識及び技能，数学的な思考力，判断力，表現力等を評価できるようにした。

6　数と式，図形，関数，データの活用のうち，いくつかの領域からなる融合問題を通して，事象の中に潜む関係や法則を数理的に考察し，数学的な思考力，判断力，表現力等を用いて，問題を解決する能力を評価できるようにした。

結果の概要

1 は，各領域における基礎的・基本的な知識・技能の習得をみる問題であり，平均正答率は 75.8%（昨年度は68.3%）であった。円周角の定理，ことがらの逆および反例への理解に課題がみられた。今後も基礎・基本の定着を図ってほしい。

2 は，数の性質，方程式についての問題を通して，数と式の領域における知識・技能，数学的な思考力・判断力・表現力の定着をみる問題である。1は，有理数と無理数について正しく理解できているかを問う問題であり，正答率は 61.8%であった。2 の(1)は，２つの計算方法を正しく捉え立式し，連立方程式を解く問題である。(2)は，新たな計算方法を正しく捉えなおし，文字式を用いて証明する問題である。正答率は(1)が 41.4(64.1)%，(2)が 17.3(57.2)%（( )内は部分正答も含めた割合）であった。与えられた条件を正しく理解し，表現・処理する力の定着が望まれる。

3 は，図形の領域における知識・技能の習得，思考力･判断力･表現力の定着をみる問題である。1は，２点から等距離にある点が垂直二等分線上の点であることを理解し，それを作図する力を問う問題である。正答率は 58.4%であった。2 の(1)は，円錐の体積を求める問題である。(2)は，三平方の定理を用いて円錐の母線の長さ（転がした際の円の半径）を求め，円錐の底面の円周との関係を利用する問題である。正答率は(1)が 71.4%，(2)が 15.4%であった。3は，交わる２円の共通な弦を１辺とする直角三角形が合同であることを証明し，さらにそれを用いて四角形が平行四辺形であることを証明する問題である。正答率は 13.6(70.4)%であった。直径に対する円周角の性質，直角三角形の合同条件および平行四辺形であるための条件を正しく捉え，問題を解決したり，統合的・発展的に考察したりする学習活動の充実が望まれる。

4 は，データの活用の領域における知識・技能の習得，思考力・判断力・表現力の定着をみる問題である。1は，標本調査の問題であり，正答率は61.7%であった。2は，２つの箱からそれぞれ１個の玉を取り出し玉の色により得点を決める問題であり，(1)は場合の数，(2)は余事象の確率，(3)は確率を活用し，ことがらが正しいかどうかを説明する問題である。正答率は(1)が 65.4%，(2)が 39.5%，(3)が 14.9(62.4)%であった。3は，気象観測データの箱ひげ図を読み取り，正誤の判定や適するヒストグラムを選ぶ問題であり，正答率は(1)が 62.7(94.1)%，(2)が 38.4%であった。箱ひげ図やヒストグラムなどについて正確に理解し，日常生活や社会の事象に活用する力を育むことが大切である。

5 は，関数の領域における知識・技能の習得，思考力･判断力･表現力の定着をみる問題である。1は，表から関数を見出す問題であり，正答率は 46.2(86.3)%であった。2の(1)は，２次関数の係数を求める問題であり，正答率は 67.3%であった。(2)は平行線における等積変形を用いた１次関数の問題であり，正答率は 14.6(39.2)%であった。対話的に学ぶ中で，数学的に考察する力を深めてほしい。3は，１次関数と座標平面上の図形に関する問題である。(1)は変域を求める問題で，正答率は 44.6%であった。(2)は座標平面上で角度を考察する問題で，正答率は 23.1%であった。(3)は台形の辺上の格子点の問題である。t が偶数である場合と奇数である場合に分けて考察する力が求められる。正答率は 0.6(7.0)%であった。表，式，グラフを相互に関連付けて活用し，事象を多面的に考察する力の育成が求められる。

日常生活の中で，事象を数学的に捉え，試行錯誤しながら粘り強く問題解決に取り組むとともに，その過程を振り返って，得られた結果の意味を考えたり，統合的・発展的に考察したりすることなどを通して，数学のよさを感得してもらいたい。

＜令８(2026)＞　　数　学　学　力　検　査　結　果　集　計　表

問題			正答率
1	1		98.5%
	2		77.2%
	3		90.9%
	4		75.7%
	5		74.7%
	6		77.8%
	7		57.3%
	8		53.9%
2	1		61.8%
	2	(1)	41.4% (64.0%)
		(2)	17.3% (57.2%)

問題			正答率
3	1		58.4%
	2	(1)	71.4%
		(2)	15.4%
	3		13.6% (70.4%)
4	1		61.7%
	2	(1)	65.4%
		(2)	39.5%
		(3)	14.9% (62.4%)
	3	(1)	62.7% (94.1%)
		(2)	38.4%

問題			正答率
5	1		46.2% (86.3%)
	2	(1)	67.3%
		(2)	14.6% (39.2%)
	3	(1)	44.6%
		(2)	23.1%
		(3)	0.6% (7.0%)

※　（　）内は部分正答も含めた割合

理　科

出題の方針

1　中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ，中学校理科の指導内容に即し，エネルギー，粒子，生命，地球の４領域の学習内容から偏りなく出題した。

2　自然の事物・現象についての概念や原理・法則の理解や，習得した知識を日常生活や社会と関連付けて考える力をみるようにした。

3　観察，実験などに関する基本的な技能をみるようにした。

4　見通しをもって観察，実験を計画して，科学的に探究する力をみるようにした。

5　観察，実験などから得られた結果を分析し，解釈する力をみるようにした。

結果の概要

1 は，身近な生物の分類と進化について，科学的に考察する力をみる問題である。4 はクジラが哺乳類であることについて考察する問いであり，正答率は 62.2％であった。

2 は，炭酸カルシウムと塩酸を用いた実験を通して，化学反応における量的関係について，科学的に考察する力をみる問題である。3 は炭酸カルシウムの質量と発生した気体の質量との関係を表すグラフの作成と，反応せずに残った炭酸カルシウムについて考察する問いであり，正答率は 39.5％であった。4 は貝殻中の炭酸カルシウムの割合を考察する問いであり，正答率は 21.8％であった。

3 は，天気図や気象に関するデータを通して，前線の通過における天気の変化等について，科学的に考察する力をみる問題である。2 は前線付近の雲のようすを考察する問いであり，正答率は 38.8％であった。4 は前線の通過と雲の発生ついて考察する問題であり，正答率は 38.5％であった。

4 は，斜面を用いた実験を通して，物体に働く重力や物体が持つ力学的エネルギーについて，科学的に考察する力をみる問題である。4 は力学的エネルギー保存の法則に関する問いであり，正答率は 30.4％であった。

5 は，ヒマワリの葉を用いた実験を通して，葉の光合成と呼吸の働きについて，科学的に考察する力をみる問題である。4 はヒマワリとタンポポの葉のつき方とその理由を葉の働きに着目して考察する問いであり，正答率は 39.9％であった。

6 は，水を入れた容器で音を出す実験を通して，音の性質について科学的に考察する力をみる問題である。2 は音の波形から振動数を考察する問いであり，正答率は 46.0％であった。4 は実験の結果を日常生活と関連付けながら考察する問いであり，正答率は 62.9％であった。

7 は，天体の現象である惑星直列や月を詠んだ和歌を通して，天体の位置や見え方について，科学的に考察する力をみる問題である。4 は柿本人麻呂の和歌を基に，太陽・地球・月の位置関係や月の満ち欠けについて考察する問いであり，正答率は 27.4％であった。

8 は，マイクロプレートを用いた実験を通して，金属のイオン化傾向について科学的に考察する力をみる問題である。4 はイオンのなりやすさについて，金属の身近な利用場面と関連付けながら考察する問題であり，正答率は 33.8％であった。

理科の学習においては，各領域における基礎的・基本的な概念や原理・法則を理解するだけでなく，見通しをもって観察，実験を行い，得られた結果を根拠に分析・解釈することも大切である。また，学習した内容を日常生活や社会と関連付けて考えることも大切である。「なぜ」と考える姿勢をもち，根拠を基に説明ができるようにすることを意識して学習に取り組んでほしい。

理科の学習を通して，自然の事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を身に付けてほしい。

＜令８(2026)＞　　理　科　学　力　検　査　結　果　集　計　表

問題		正答率
1	1	78.9 % (83.7%)
	2	86.4 %
	3	49.9 % (55.4%)
	4	62.2 % (96.6%)
2	1	62.2 % (63.2%)
	2	72.5 % (94.2%)
	3	39.5 % (74.8%)
	4	21.8 % (22.6%)
3	1	67.0 % (71.6%)
	2	38.8 % (39.9%)
	3	47.8 % (72.8%)
	4	38.5 % (90.9%)

問題		正答率
4	1	48.5 % (49.3%)
	2	49.7 % (84.8%)
	3	55.6 % (64.2%)
	4	30.4 % (58.2%)
5	1	71.2 % (73.5%)
	2	71.7 % (76.6%)
	3	82.1 % (96.6%)
	4	39.9 % (62.9%)
6	1	62.6 % (66.3%)
	2	46.0 %
	3	57.9 % (77.7%)
	4	62.9 % (92.4%)

問題		正答率
7	1	76.8 % (77.9%)
	2	74.0 % (92.3%)
	3	20.6 % (47.9%)
	4	27.4 % (70.7%)
8	1	84.3 % (85.3%)
	2	70.9 % (95.6%)
	3	57.3 % (58.6%)
	4	33.8 % (89.2%)

※（　）内は部分正答も含めた割合

英　語

出題の方針

1　問題の内容が中学校学習指導要領の趣旨に沿うものとし，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによるコミュニケーションを図る資質・能力を測ることができるようにした。

2　中学校学習指導要領に示されている知識及び技能や，思考力，判断力，表現力等を測る問題を出題するようにした。

3　聞く力については，まとまりのある英語を聞き，必要な情報を聞き取ったり，概要や要点を捉えたりする基礎的な力を主としてみるようにした。

4　読む力については，説明文や物語文などを読み，書かれていることの概要や要点を文脈に沿って捉える力をみるようにした。

5　表現する力については，コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，自分の考えなどを英語で表現したり伝えたりする力をみるようにした。

結果の概要

1 は，身近な事柄を素材にした，音声によるコミュニケーションの場面を扱った聞き方の問題で，３問構成とした。問題全体の平均正答率は，53.2%であった。1 は対話を聞いて質問に対して適切に応答する力をみる問題である。４問の平均正答率は 71.5%であった。2 は対話を聞いて，必要な情報を捉える力をみる問題である。３問の平均正答率は 51.6%であった。3 はまとまりのある英語を聞いて，その概要や要点を捉える力をみる問題である。３問の平均正答率は 30.1%であった。聞き方の問題は，部分正答を含めると全体として正答率が高かったが，3 の(2)が 4.6%(部分正答も含める割合)と低い結果となった。「聞く力」の向上のためには，一部の情報を聞き取ることに終始せず，聞き取った情報を整理し，話し手が伝えたい内容の概要や要点を捉えられるようになることが大切である。

2 は，基礎的・基本的な言語材料についての理解度をみる問題及び目的や場面，状況などに応じて自分の考えを英語で伝える力をみる問題で，３問構成とした。1 は基礎的・基本的な言語材料を活用した，ホームステイ先に送るメール文を素材にしている。６問の平均正答率は 71.2%であった。2 は語句を並べかえ，語と語のつながりなどに注意して正しく英語で表現する力をみるための問題である。３問の平均正答率は 59.6%であった。3 は ALT からの指示を読み，自分の住んでいる地域を紹介する発表原稿を完成させる英作文の問題であり，完全正答率は 6.2%，部分正答を含めると 73.4%であった。

自分の気持ちや考えを相手に伝わるように英語で書く力を育成するためには，言語材料についての理解の定着を確実に図るとともに，実際のコミュニケーションの目的や場面，状況を想定しながら，英語で表現しようとする取組を日頃から積み重ねることが重要である。

3 は，「ピクトグラム」についての説明文を素材として用いた読解問題で，説明文の概要や要点を捉える力をみる問題である。４問の平均正答率は 54.1%，部分正答を含めると 63.6%であった。4 は，本文を読み，タイトルとして適切なものを選ぶ問題である。平均正答率は 69.3%であった。「ピクトグラム」の説明内容を理解した上で，文全体の要旨を考えて答えを導き出すことが求められた。説明文を読む際には，話の論理展開を意識しながら，各段落や英文全体の概要や要点を的確に捉えることが大切である。

4 は，物語文を素材とした読解問題で，物語文の概要や要点を文脈に沿って読み取る力をみるものである。部活動での経験と ALT からのアドバイスを通して，主人公の心が成長する様子を題材とした。５問の平均正答率は 40.5%，部分正答を含めると 48.4%であった。4 は，ALT のアドバイスを基に，主人公が部活動での経験を通して気付いたことを踏まえ，ALT の言葉の真意について適切な英語を選択する問題である。出来事や登場人物の心情を読み取り，状況を整理しながら読むことが大切である。

5 は，対話の流れを把握しながら要点や必要な情報を捉える力及び対話や与えられた資料やグラフに基づき英語で適切に表現する力をみる問題である。実際の言語の使用場面により近い題材及び問題設定となるようにしている。今年度は，給食や郷土料理を題材にして，食品ロスについて考える英文を出題した。問題全体の平均正答率は 29.4%，部分正答を含めると 45.3%であった。3 は資料を参考に，文脈から判断して適切な英語で表現する力をみる問題である。３問の平均正答率は 9.6%，部分正答を含めると 37.5%であった。資料の内容や対話の流れを的確に把握し，適切な表現を活用して書くことが求められた。5 は登場人物の考えを記述する問題で，本文中で述べられた情報や，二人の意見を整理しながら答えを導き出すことが求められた。正答率は 6.9%，部分正答を含めると 42.8%であった。

＜令８(2026)＞　　英　語　学　力　検　査　結　果　集　計　表

問題			正答率
1	1	(1)	80.6%
		(2)	72.5%
		(3)	55.6%
		(4)	77.2%
	2	(1)	42.2%
		(2)	76.6%
		(3)	36.2%
	3	(1)	63.7% (80.3%)
		(2)	1.2% (4.6%)
		(3)	25.4% (36.4%)

問題			正答率
2	1	(1)	95.8%
		(2)	90.9%
		(3)	69.5%
		(4)	51.0%
		(5)	47.6%
		(6)	72.5%
	2	(1)	65.4%
		(2)	79.6%
		(3)	33.9%
	3		6.2% (73.4%)
3	1		19.9% (63.7%)
	2		51.3%
	3	①	75.8% (77.9%)
		②	54.0% (55.9%)
	4		69.3%

問題			正答率
4	1		60.0%
	2		16.3% (42.5%)
	3		10.1% (23.6%)
	4		51.3%
	5		64.9%
5	1	②	71.5%
		③	71.2%
	2		20.2% (27.7%)
	3	(2)	9.7% (43.6%)
		(3)	11.5% (37.0%)
		(4)	7.5% (32.0%)
	4		36.6%
	5		6.9% (42.8%)

※　（　）内は部分正答も含めた割合